

【調査サマリー】

現場監督・所長、4月からの残業規制開始も「働き方はかえって厳しくなる」が4割
～「現場作業の効率の悪さ」に対して、「BIMを使いこなしたい」の声も4.4ポイント上昇～

調査実施概要（調査元：BuildApp News 編集部）	
調査期間：2024年1月15日～1月22日	回答数：307名
調査対象者：全国の現場監督・所長（20～70代）	調査方法：インターネット調査（ゼネラルリサーチ株式会社）

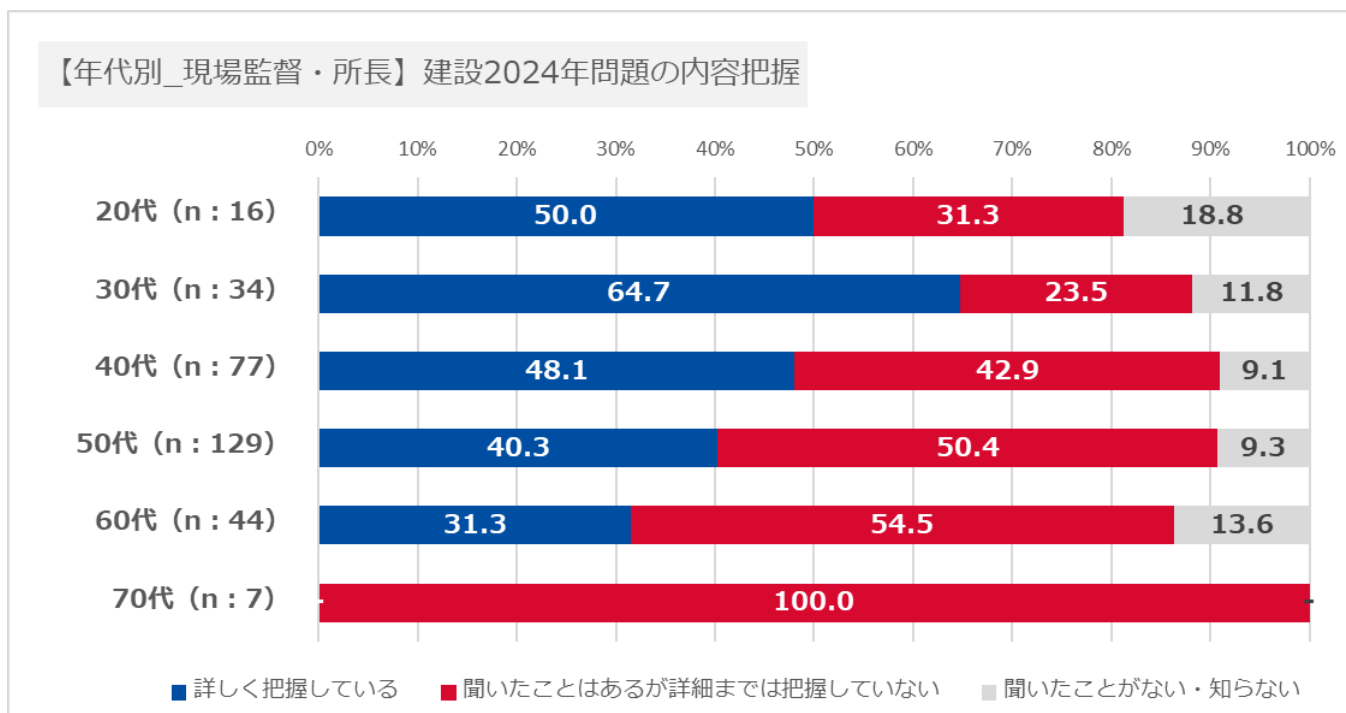
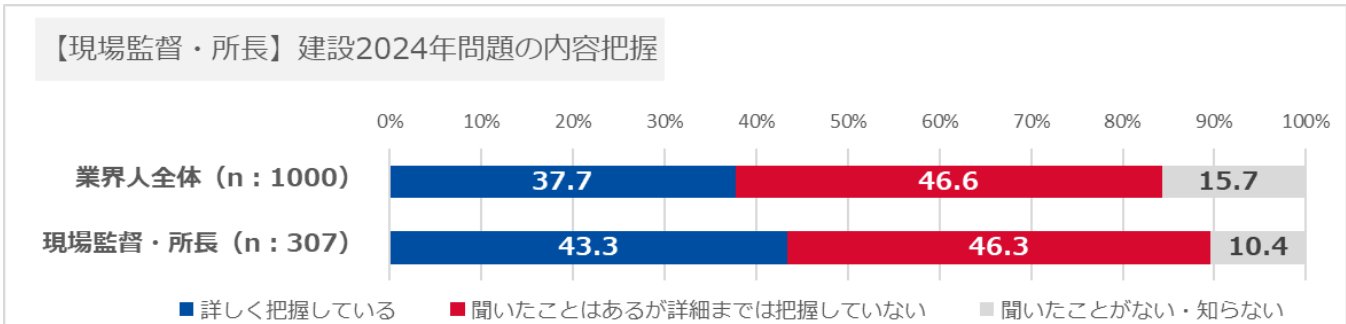
【目次】

1. 【建設2024年問題の認知】	2
2. 【建設2024年問題で好転と思うこと、悪化と思うこと（複数回答）】	2
2-1. 【好転と思うこと】	2
2-2. 【年代別_好転と思うこと】	2
2-3. 【悪化と思うこと（複数回答）】	3
2-4. 【年代別_悪化と思うこと（複数回答）】	3
2-5. 【建設2024年問題で「好転と思うこと」、「悪化と思うこと」のまとめ】	4
3. 【建設2024年問題と人手不足・採用の今後】	4
4. 【現場の痛み（複数回答）】	5
4-1. 【年代別_現場の痛み（複数回答）】	5
5. 【建設業界で改善して欲しいこと（複数回答）】	6
5-1. 【業界人1,000名の結果との比較】	6
5-2. 【年代別_建設業界で改善して欲しいこと（複数回答）】	7
6. 【建設業界で最も深刻な課題】	7
6-1. 【前回調査結果との比較】	7
7. 【業界課題の解決に期待するデジタル技術（ちょうど3つを選択）】	8
7-1. 【前回調査結果との比較】	8
8. 【導入が進んでいると思うデジタル技術（ちょうど3つを選択）】	8
8-1. 【前回調査結果との比較】	8
9. 【デジタル化未対応による仕事の不安】	8
9-1. 【年代別_デジタル化未対応による仕事の不安】	9
10. 【デジタル化による生産性向上、業務効率化が進んでいる・遅れているプロセス（複数回答）】	9
10-1. 【業界人1,000名との比較】	10
10-2. 【前年度比_デジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れている業務プロセス】	11
11. 【デジタル化による「生産性向上、業務効率化が進まない」理由（複数回答）】	11
12. 【デジタル化できれば生産性向上に繋がるのに、と思う業務プロセス（複数回答）】	12
13. 【デジタル化が難しいと思う業務（複数回答）】	12
14. 【使いこなすことができればよいと思うデジタル技術（複数回答）】	13
14-1. 【前年度比_使いこなすことができればよいと思うデジタル技術】	13
14-2. 【BIMを使いこなしたい理由】	14
14-3. 【年代別_BIMを使いこなしたい割合】	14
15. 【実際のBIM活用】	15
15-1. 【前年度比_実際のBIM活用】	15
15-2. 【年代別_実際のBIM活用】	15
15-3. 【BIM活用者の、BIM活用に期待する理由】	16

【結果詳細】

1. 【建設2024年問題の認知】

現場監督・所長（現場代理人）307名で、建設2024年問題を「詳しく把握している」と回答したのは43.3%で、業界人1,000名に比べて5.6ポイント多かった。年代別に見てみると、30代が「詳しく把握している（64.7%）」方が最も多く、20代の「聞いたことがない・知らない（18.8%）」が多かった。



2. 【建設2024年問題で好転すると思うこと、悪化すると思うこと（複数回答）】

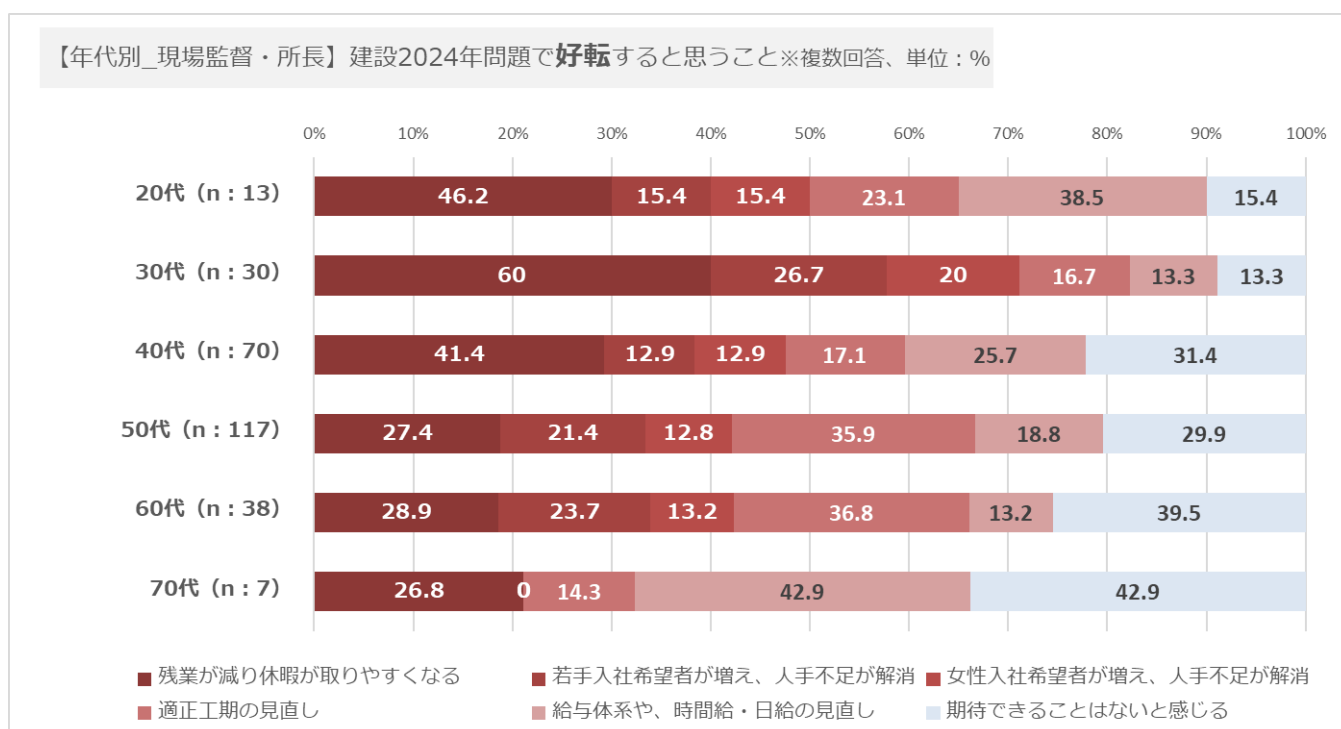
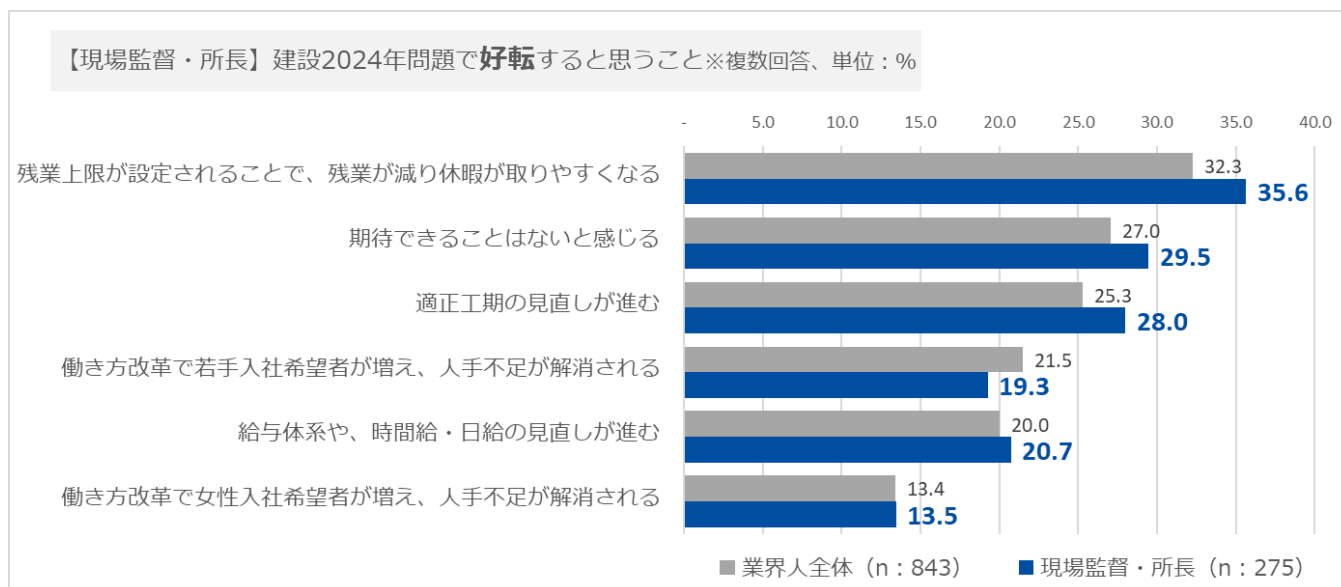
建設2024年問題を「詳しく把握している」または「聞いたことがあるが詳細まで把握していない」と回答した現場監督・所長（現場代理人）(n: 275)に、建設2024年問題で「好転すると思うこと（複数回答）」、「悪化すると思うこと（複数回答）」を尋ねた。

2-1. 【好転すると思うこと】

現場監督・所長（現場代理人）では、1位「残業上限が設定されることで、残業が減り休暇が取りやすくなる(35.6%)」、2位「期待できることはないと感じる(27.0%)」、3位「適正工期の見直しが進む(28.0%)」であり、業界人1,000名の回答結果とほぼ同じであった。

2-2. 【年代別_好転すると思うこと】

現場監督・所長（現場代理人）の20代と30代では「残業上限が設定されることで、残業が減り休暇が取りやすくなる」との回答割合が多く、「期待できることはないと感じる」との回答割合は少ない。しかし、40代以上になるとその傾向は逆転し、「残業上限が設定されることで、残業が減り休暇が取りやすくなる」との回答割合は減少し、「期待できることはないと感じる」との回答割合が増加している。また、「給与体系や、時間給・日給の見直し」を選択した方の割合は、20代と70代が多かったことも特徴である。



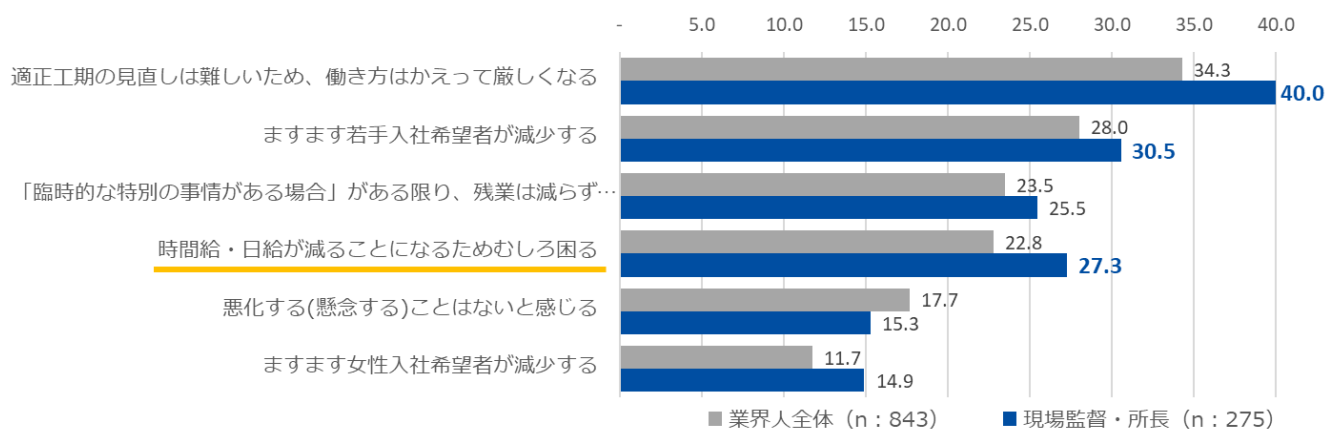
2-3. 【悪化と思うこと（複数回答）】

現場監督・所長（現場代理人）では、1位「**適正工期の見直しは難しいため、働き方はかえって厳しくなる（40.0%）**」、2位「**ますます若手入社希望者が減少する（30.5%）**」、3位「**時間給・日給が減ることになるためむしろ困る（27.3%）**」であった。業界人1000名の回答結果とは1・2位は同じだが、3位が異なる結果となった背景には、**時間外労働時間の規制に伴い残業代が減り手取り総額の減少を懸念する心理**が伺える。

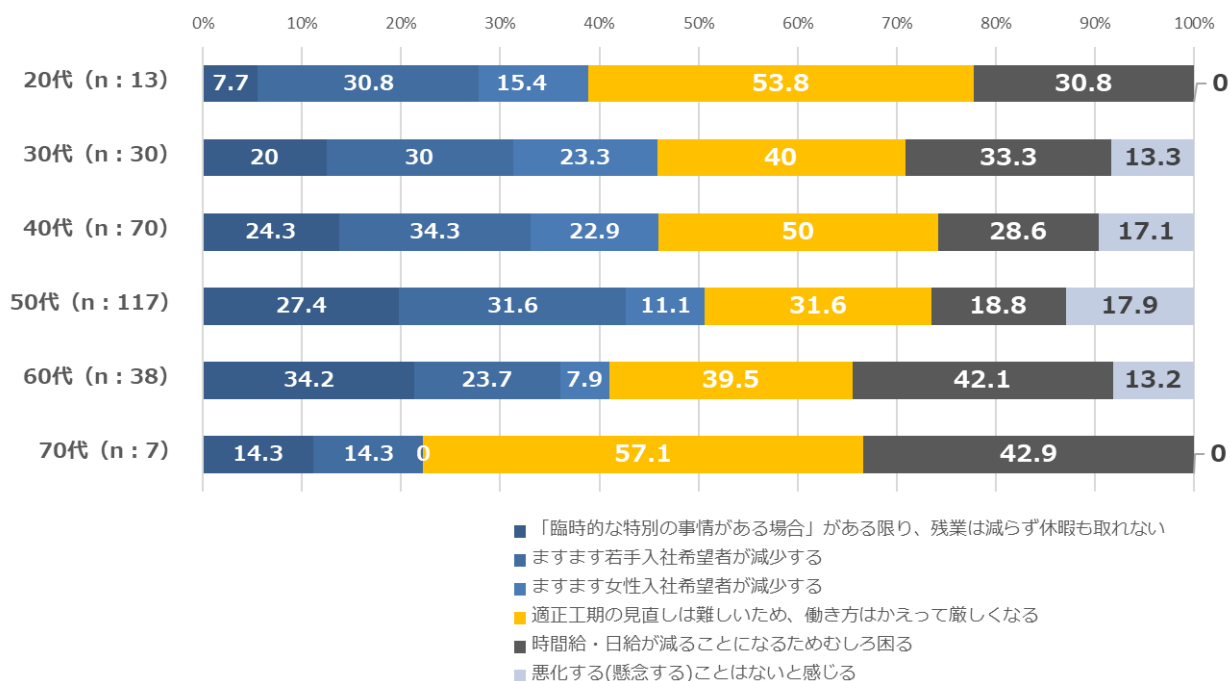
2-4. 【年代別_悪化と思うこと（複数回答）】

「**適正工期の見直しは難しいため、働き方はかえって厳しくなる**」と「**時間給・日給が減ることになるためむしろ困る**」に注目してみると、50代が最小で、20代と70代でその数値が大きい結果となった。「**時間給・日給が減ることになるためむしろ困る**」については、2-2.【年代別_好転と思うこと】で20代と70代に「**給与体系や、時間給・日給の見直し**」を選択した方の割合が多かったことも踏まえると、現場監督・所長（現場代理人）の20代と70代の方は、**手取り総額を維持するためには残業代が減る代わりに「給与体系や、時間給・日給の見直し」が当然実施されるものと考えているのではないか。**

【現場監督・所長】建設2024年問題で悪化と思うこと※複数回答、単位：%



【年代別_現場監督・所長】建設2024年問題で悪化と思うこと※複数回答、単位：%



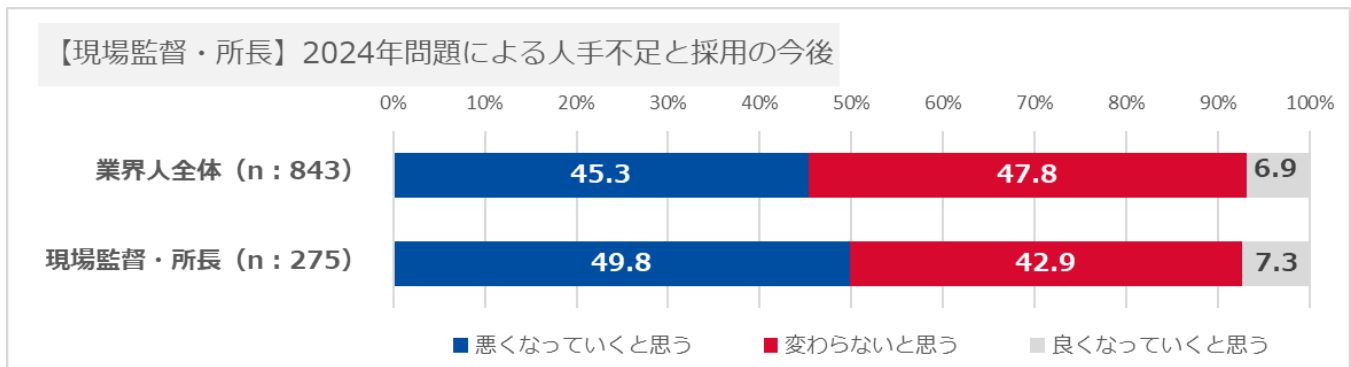
2-5. 【建設2024年問題で「好転と思うこと」、「悪化と思うこと」のまとめ】

結果を総じてみると、業界人1,000名に比べて、現場監督・所長(現場代理人)は2024年4月からの時間外労働の上限規制厳格化により、建設産業を取り巻く環境を悲観する傾向が強いと言える。特に、工期順守のために働き方はかえって厳しくなるうえ、これまでとは違い時間外労働時間が制限されることでの時間給・日給の減少を懸念する声に注目せざるを得ないが、年代によっても事情が異なることも伺える。

3. 【建設2024年問題と人手不足・採用の今後】

建設2024年問題を「詳しく把握している」または「聞いたことがあるが詳細まで把握していない」と回答した現場監督・所長(現場代理人)(n:275)に、「建設2024年問題対応が始まることで、人手不足・人材採用の状況が変化すると思いますか」と尋ねたところ、「人手不足と採用の改善」に期待するのは7.3%と1割にも満たない結果となった。

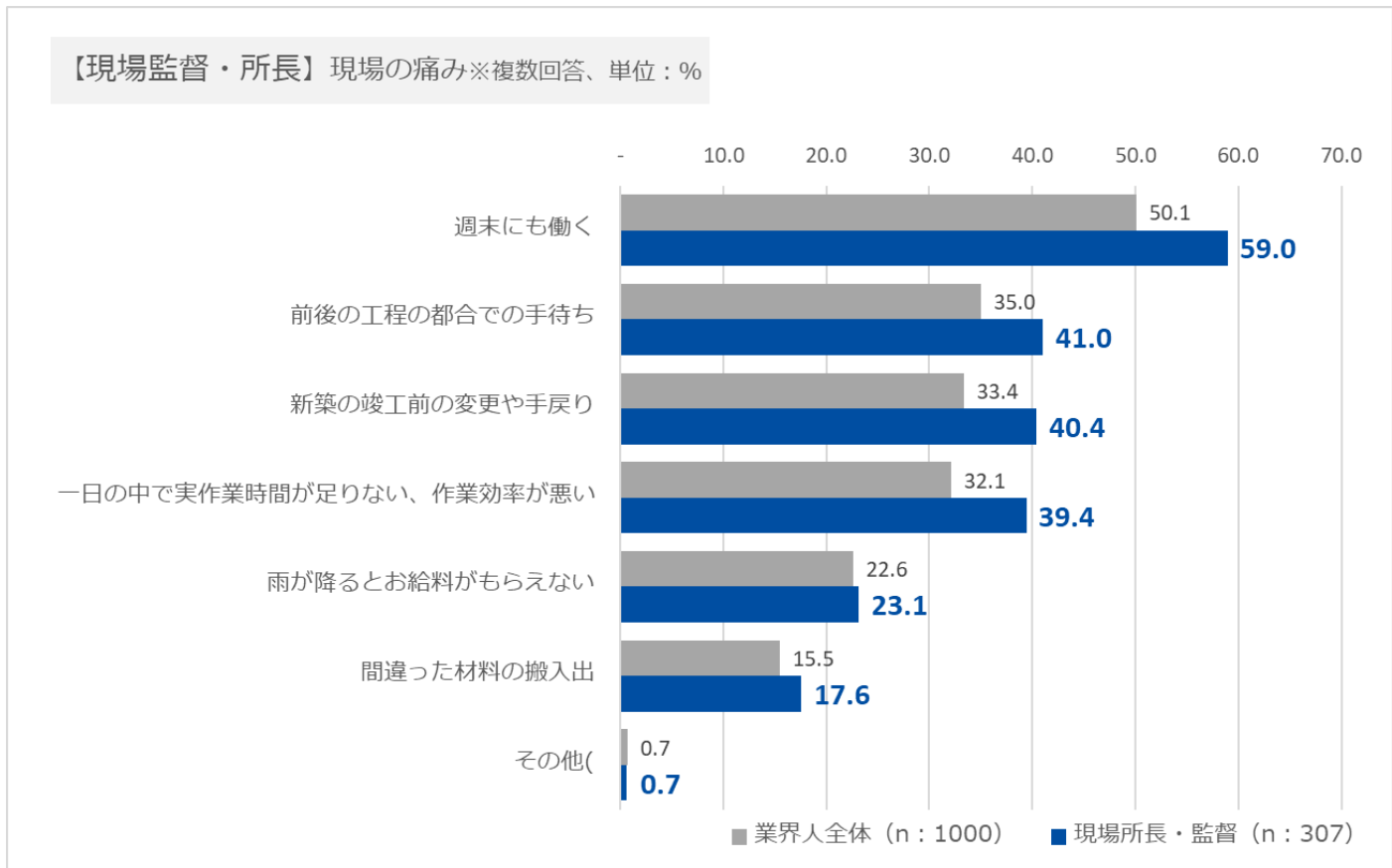
逆に約5割が「悪くなっていくと思う」と回答しており、業界人1,000名のそれよりも4.5ポイント多かった。



4. 【現場の痛み（複数回答）】

現場監督・所長（現場代理人）307名に、「建設現場におけるご自身や現場関係者の痛み」を尋ねたところ、「週末にも働く（納期厳守や、工程管理が厳しくて休めない）（59.0%）」がダントツの1位で、業界人1,000名の結果に比べても約9ポイントも上回っていた。

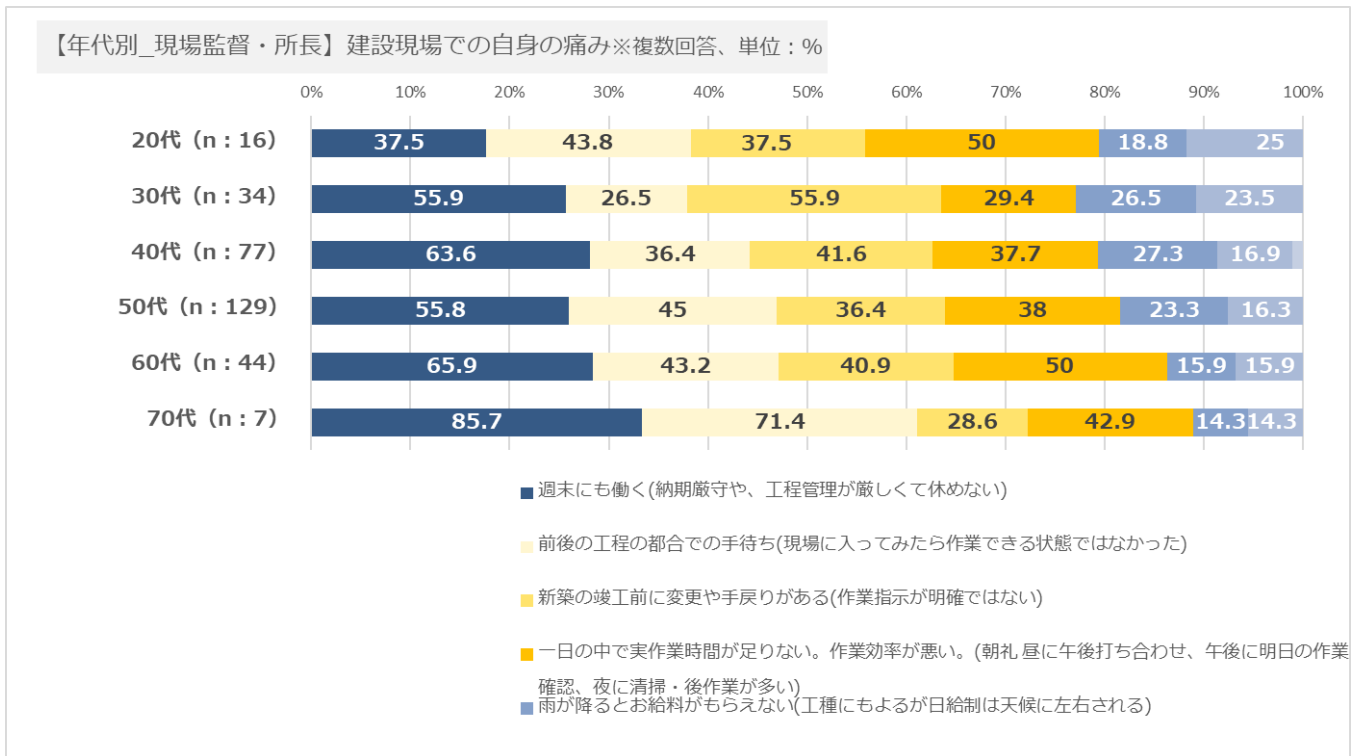
2位「前後の工程の都合での手待ち（41.0%）」、3位「新築の竣工前の変更や手戻り（40.4%）」、4位「一日の中で実作業時間が足りない、作業効率が悪い（39.4%）」も同様に、業界人1,000名の結果に比べてもその割合が多いことから、**工程間の手戻り（作業のやり直し）と現場作業の効率に課題があるのではないか。**



4-1. 【年代別_現場の痛み（複数回答）】

20代以外の年代では「週末にも働く（納期厳守や、工程管理が厳しくて休めない）」が最多だったが、20代だけが、「週末に働く（37.5%）」よりも「一日の中で実作業時間が足りない、作業効率が悪い（朝礼、昼に午後打ち合わせ、午後に明日の作業確認、夜に清掃・後作業が多い）（50.0%）」が「現場における自身の痛み」であるとの回答割合が多かった。

60代も半数が「一日の中で実作業時間が足りない、作業効率が悪い（朝礼、昼に午後打ち合わせ、午後に明日の作業確認、夜に清掃・後作業が多い）（50.0%）」と回答しており、20代と60代の現場監督・所長は「現場作業の効率性」を課題に感じているのではないかと推察される。

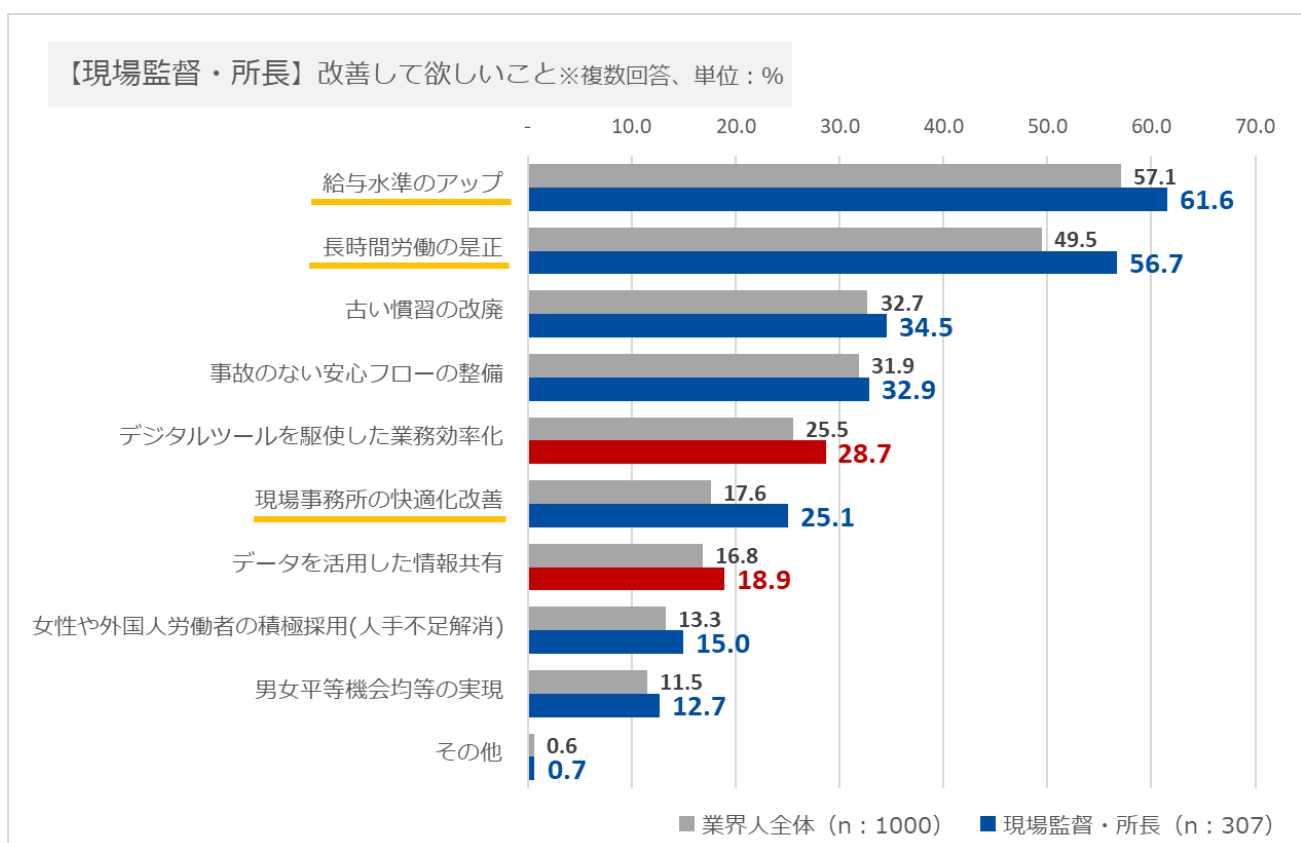


5. 【建設業界で改善して欲しいこと（複数回答）】

現場監督・所長(現場代理人)307名の「建設業界で改善して欲しいこと」は、1位「給与水準のアップ(61.6%)」、2位「長時間労働(休日取得日数・早出・残業)の是正をしてほしい(56.7%)」、3位「古い慣習を無くしてほしい(34.5%)」で、「デジタルツールを駆使した業務効率化(28.7%)」や「データを活用した情報共有(18.9%)」は圏外であった。この結果から、現場監督・所長(現場代理人)には、「長時間労働は是正してほしいが、手取りは変えたくないで給与水準をアップしてほしい」との心理が伺えるが、その実現には付加価値(一人当たりの労働生産性の向上)が必要であり、デジタル化は避けて通れないのではないかと。

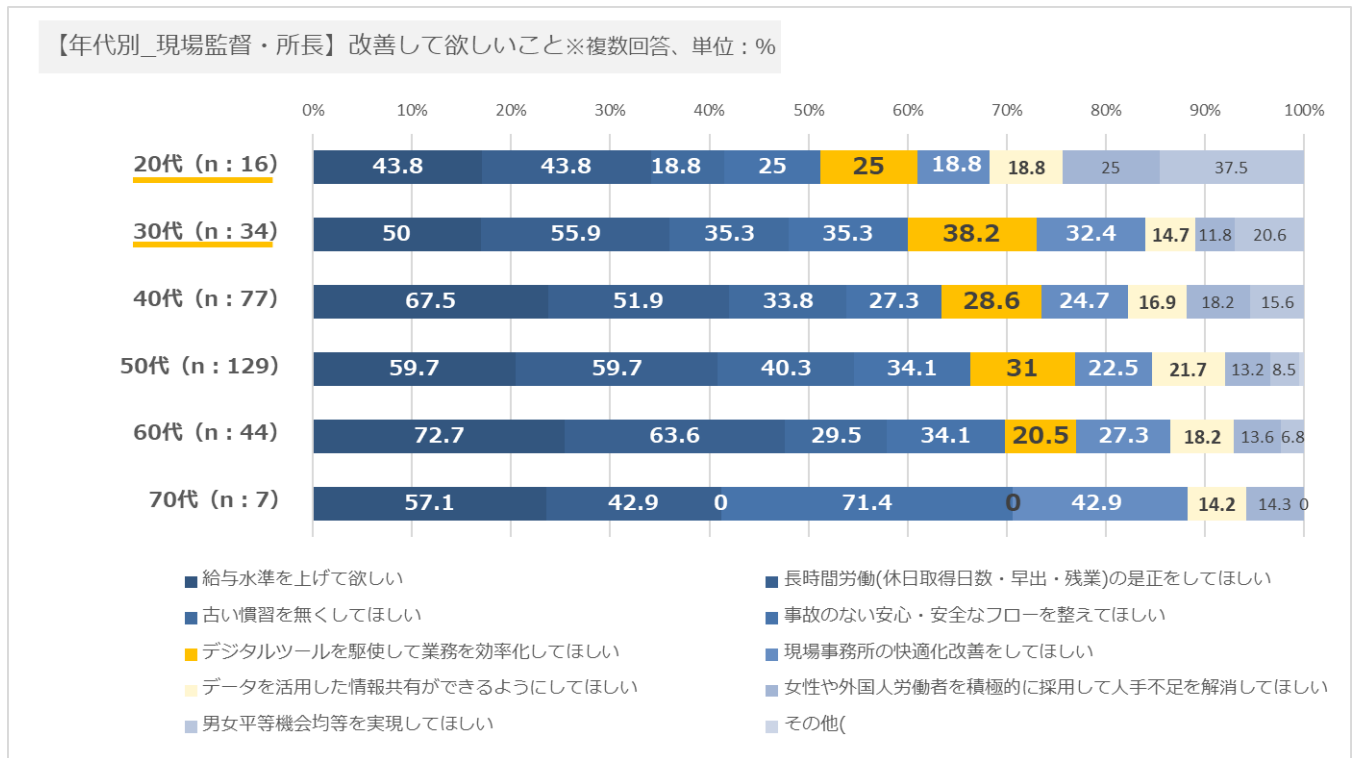
5-1. 【業界人1,000名の結果との比較】

業界人1,000名と順位は同じだが、いずれもその割合は大きく、「長時間労働の是正」は7.2ポイントも上回っていた。また、「現場事務所の快適化改善(25.1%)」も業界人1,000名の結果よりも7.5ポイント上回っていた。現場監督・所長(現場代理人)は現場の働く環境の改善要望が強いのではないかと。



5-2. 【年代別_建設業界で改善して欲しいこと (複数回答)】

いずれの年代においても、「給与水準のアップ」と「長時間労働(休日取得日数・早出・残業)の是正をしてほしい」がトップ2であるが、20代と30代では「デジタルツールを駆使した業務効率化」がそれぞれ25.0%、38.2%で3位にランクインしていることに注目したい。



6. 【建設業界で最も深刻な課題】

現場監督・所長(現場代理人) 307名に、「建設業界で最も深刻と思われる課題」の1位~3位を尋ねたところ、1位「人手不足(65.1%)」、2位「高齢化による技術継承(46.6%)」、3位「労働時間が長い・年間休日が少ない(33.6%)」との結果となった。

特筆すべきは、業界人1,000名の回答結果に比べ、1~2位の順位は同じだが割合が多いこと、3位に「労働時間が長い・年間休日が少ない(33.6%)」がランクインしていることが挙げられる。

建設業界で最も深刻な課題		
	現場監督・所長(現場代理人) 307名の回答	業界人1,000名の回答
1位	人手不足(65.1%)	人手不足(63.0%)
2位	高齢化による技術継承(46.6%)	高齢化による技術継承(45.3%)
3位	労働時間が長い・年間休日が少ない(33.6%)	円安などによる建材・人件費の高騰(30.2%)

6-1. 【前回調査結果との比較】

2023年調査結果と比べると、1~2位の順位は同じだが割合が増加しており課題が深刻化している。また、2023年調査結果ではランクインしていなかった「労働時間が長い・年間休日が少ない(33.6%)」が3位に上がっており、建設の「2024年問題」を背景に、現場監督・所長(現場代理人)自身の働き方を改めて見直す機会になっているのではないかと考えられる。

現場監督・所長(現場代理人) 307名が思う建設業界で最も深刻な課題		
	2024年調査	2023年調査
1位	人手不足(65.1%)	人手不足(63.3%)
2位	高齢化による技術継承(46.6%)	高齢化による技術継承(45.3%)
3位	労働時間が長い・年間休日が少ない(33.6%)	円安などによる建材・人件費の高騰(31.5%)

7. 【業界課題の解決に期待するデジタル技術（ちょうど3つを選択）】

現場監督・所長（現場代理人）307名に、業界の最も深刻な課題（人手不足、高齢化による技術承継、労働時間の長さや休日の少なさ）に対する解決方法として期待する「デジタル技術」の1位～3位を尋ねたところ、1位「施工ロボット（35.8%）」、2位「図面管理システム（22.8%）」、3位「VR・AR・MR（17.3%）」との結果となり、「BIM/CIM」は圏外で、業界人1,000名の回答結果とほぼ同じであった。

業界課題を解決すると期待するデジタル技術		
	現場監督・所長（現場代理人）307名の回答	業界人1,000名の回答
1位	施工ロボット（35.8%）	施工ロボット（36.2%）
2位	図面管理システム（22.8%）	図面管理システム（24.9%）
3位	VR・AR・MR（17.3%）	VR・AR・MR（17.9%）

7-1. 【前回調査結果との比較】

2023年調査結果と比べると、1・3位の順位は同じだが、2位に「図面管理システム（22.8%）」がランクインしていた。

現場監督・所長（現場代理人）307名が思う「業界課題を解決すると期待するデジタル技術」		
	2024年調査	2023年調査
1位	施工ロボット（35.8%）	施工ロボット（37.8%）
2位	図面管理システム（22.8%）	施工管理システム（22.1%）
3位	VR・AR・MR（17.3%）	VR・AR・MR（15.7%）

8. 【導入が進んでいると思うデジタル技術（ちょうど3つを選択）】

現場監督・所長（現場代理人）307名に、「建設業界の中で導入が進んでいると思うデジタル技術（機器・ツール）」の1位～3位を尋ねたところ、業界人1,000名の回答結果とは異なり、1位「図面管理システム（20.8%）」、2位「施工管理システム（22.1%）」があがり、「BIM/CIM」は圏外であった。

なお、1位「図面管理システム（20.8%）」は、7.【業界課題の解決に期待するデジタル技術】の2位に急浮上した結果も踏まえると、現場監督・所長（現場代理人）では「図面管理システム」の導入効果を実感している方が増えていると推測できる。

導入が進んでいると思うデジタル技術		
	現場監督・所長（現場代理人）307名の回答	業界人1,000名の回答
1位	図面管理システム（20.8%）	施工ロボット（20.7%）
2位	施工管理システム（22.1%）	図面管理システム（21.5%）
3位	VR・AR・MR（16.3%）	VR・AR・MR（17.0%）

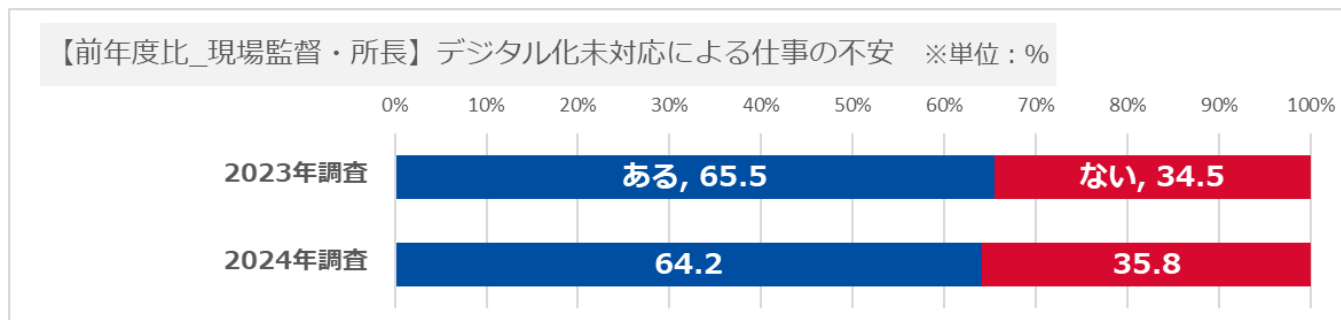
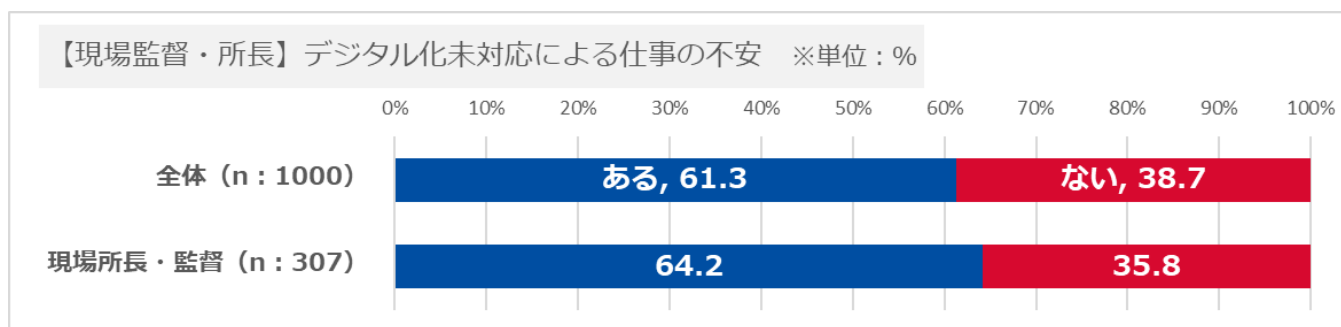
8-1. 【前回調査結果との比較】

2023年調査結果では圏外だったが今回3位にはいった「VR・AR・MR（16.3%）」は、この一年間で導入が進んだことが伺える。

現場監督・所長（現場代理人）307名が思う「導入が進んでいると思うデジタル技術」		
	2024年調査	2023年調査
1位	図面管理システム（20.8%）	図面管理システム（19.9%）
2位	施工管理システム（22.1%）	図面管理システム（21.7%）
3位	VR・AR・MR（16.3%）	施工管理システム（15.7%）

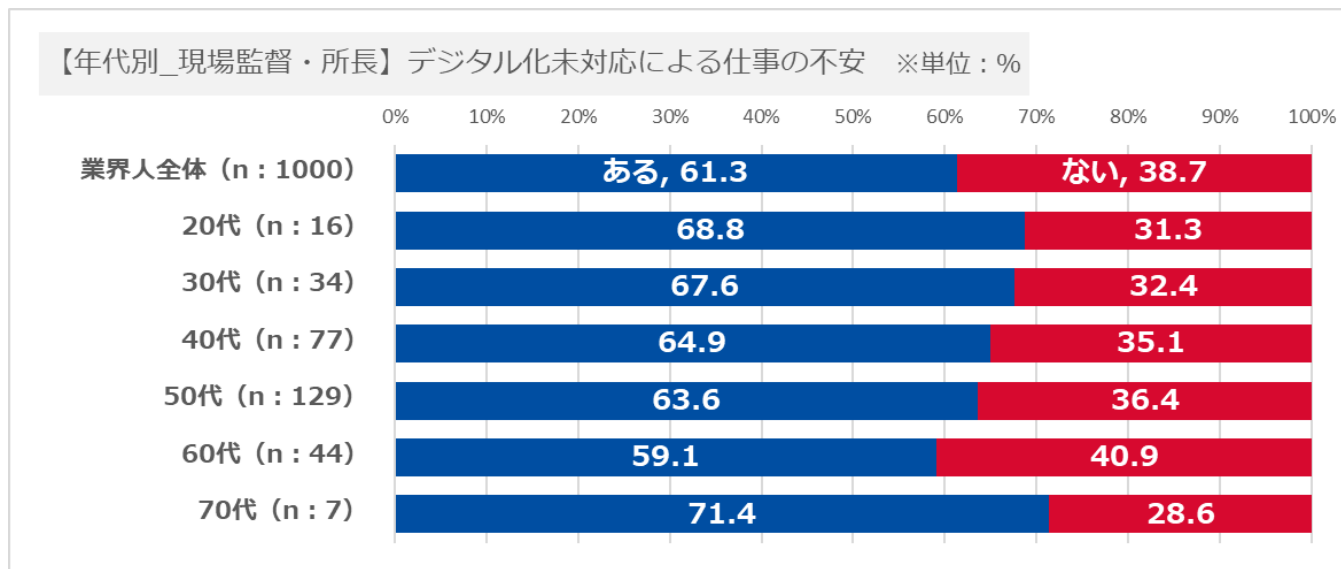
9. 【デジタル化未対応による仕事の不安】

現場監督・所長（現場代理人）307名の64.2%が、「デジタル化に対応できないと将来仕事が減るのでは、という不安」があると回答している。これは、業界人1,000名の結果よりやや多い数値だが、前回調査の結果に比べると微減している。



9-1. 【年代別_デジタル化未対応による仕事の不安】

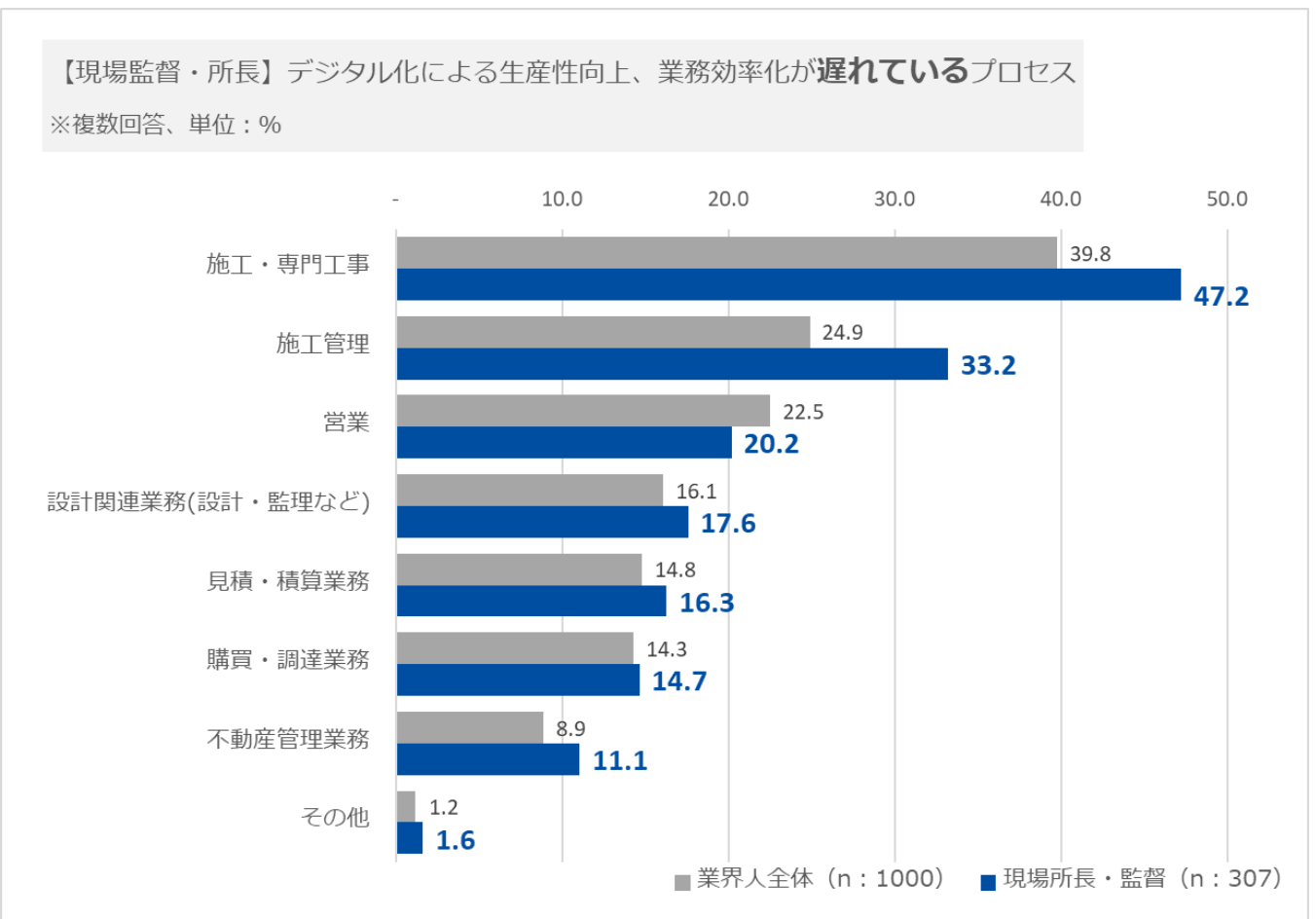
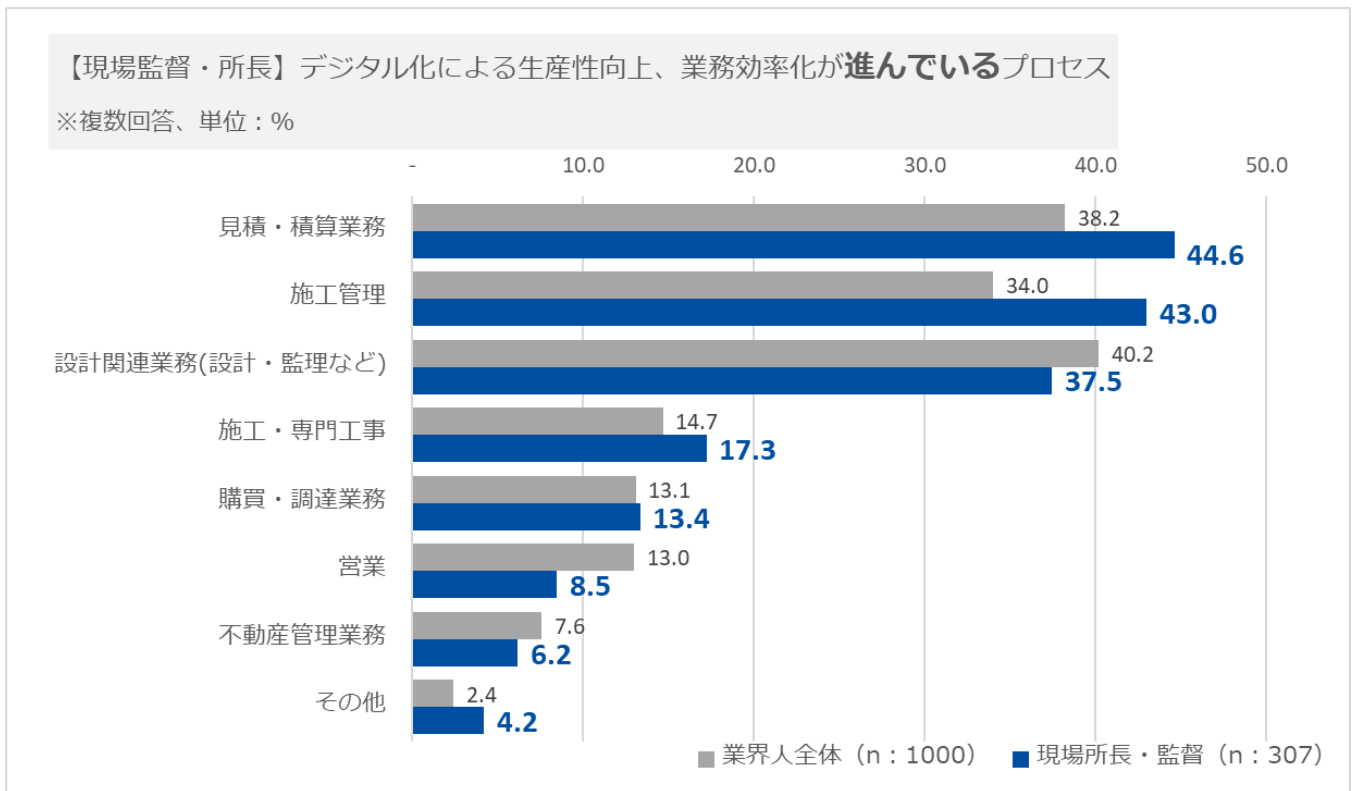
現場監督・所長（現場代理人）では、若手ほど「デジタル化に対応できないと将来仕事が減るのでは、という不安」を抱いている傾向がある。



10. 【デジタル化による生産性向上、業務効率化が進んでいる・遅れているプロセス（複数回答）】

現場監督・所長（現場代理人）307名に、業務プロセスごとに「デジタル化による生産性向上、業務効率化」が進んでいるものと、遅れているものを尋ねたところ、次表の通りの結果となった。

現場監督・所長（現場代理人）307名が思う、 デジタル化による生産性向上、業務効率化 ※複数回答		
	進んでいると思う業務プロセス	遅れていると思う業務プロセス
1位	見積・積算業務 (44.6%)	施工・専門工事 (47.2%)
2位	施工管理 (43.0%)	施工管理 (33.2%)
3位	設計関連業務(設計・監理など) (37.5%)	営業 (20.2%)



10-1. 【業界人1,000名との比較】

業界人1,000名の結果と現場監督・所長(現場代理人)307名では、「デジタル化による生産性向上、業務効率化が進んでいるプロセス」は順位の入替えがあり、「遅れているプロセス」の順位は同じだった。一方で、現場監督・所長(現場代理人)の業務である「施工管理」に注目してみると、業界人1,000名

の結果に比べて「進み」「遅れ」とともに数値が大きいことから、「デジタル化による生産性向上、業務効率化」の進み具合の実態としては二極化しているのではないかと。

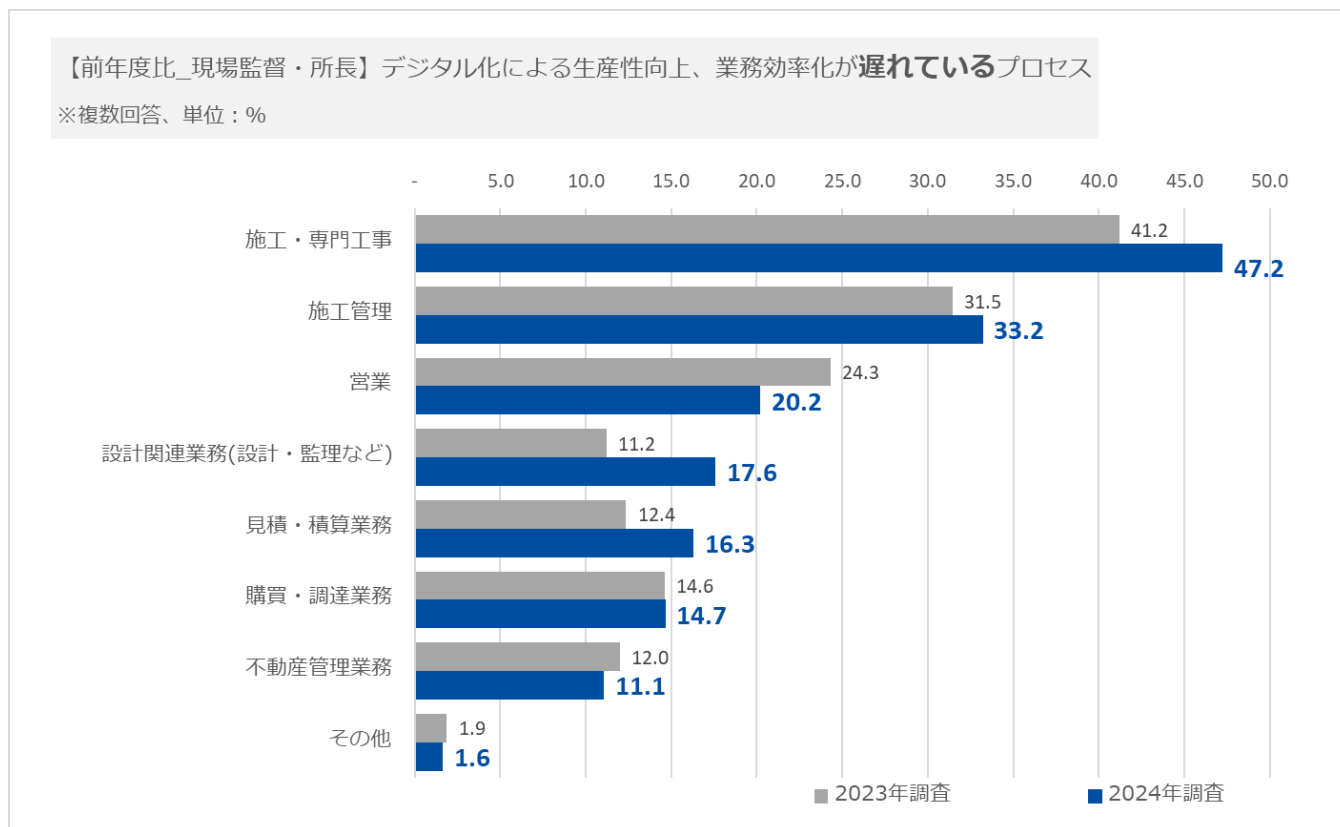
デジタル化による生産性向上、業務効率化が進んでいる業務プロセス ※複数回答		
	現場監督・所長（現場代理人）307名の回答	業界人1,000名の回答
1位	見積・積算業務（44.6%）	設計関連業務（設計・監理など）（40.2%）
2位	施工管理（43.0%）	見積・積算業務（38.2%）
3位	設計関連業務（設計・監理など）（37.5%）	施工管理（34.0%）

デジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れている業務プロセス ※複数回答		
	現場監督・所長（現場代理人）307名の回答	業界人1,000名の回答
1位	施工・専門工事（47.2%）	施工・専門工事（39.8%）
2位	施工管理（33.2%）	施工管理（24.9%）
3位	営業（20.2%）	営業（22.5%）

10-2. 【前年度比_デジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れている業務プロセス】

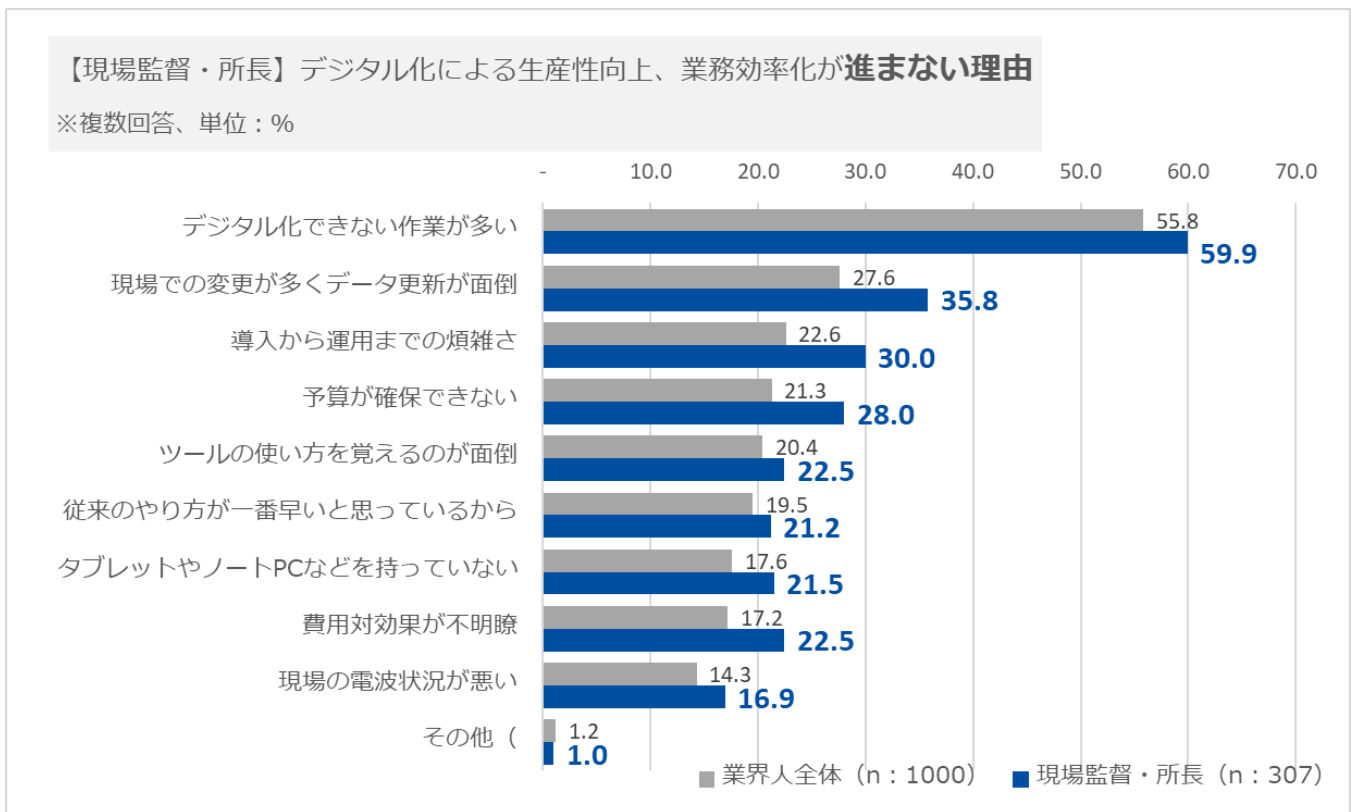
現場監督・所長（現場代理人）307名では、「デジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れている業務プロセス」として、「**施工・専門工事（47.2%）**」が2023年調査結果よりも6ポイント上昇、「**施工管理（33.2%）**」は1.7ポイント上昇していた。

このことから、現場監督・所長（現場代理人）において、**建設現場での施工関連プロセスの「デジタル化による生産性向上、業務効率化の遅れ」は深刻化しているのではないかと。**



11. 【デジタル化による「生産性向上、業務効率化が進まない」理由（複数回答）】

現場監督・所長（現場代理人）307名が思う、デジタル化による「生産性向上、業務効率化が進まない」理由のトップは「デジタル化できない作業が多い（59.9%）」で約6割に上った。2位「現場での変更が多くデータ更新が面倒（35.8%）」は業界人1,000名の結果よりも8.2ポイントも上回っており、4.【現場の痛み（複数回答）】の3位「新築の竣工前の変更や手戻り（40.4%）」を踏まえて考えると、現場監督・所長（現場代理人）においては現場での変更や手戻りの削減し、データ更新を減らすことが「生産性向上、業務効率化」のカギと言えるのではないかと。



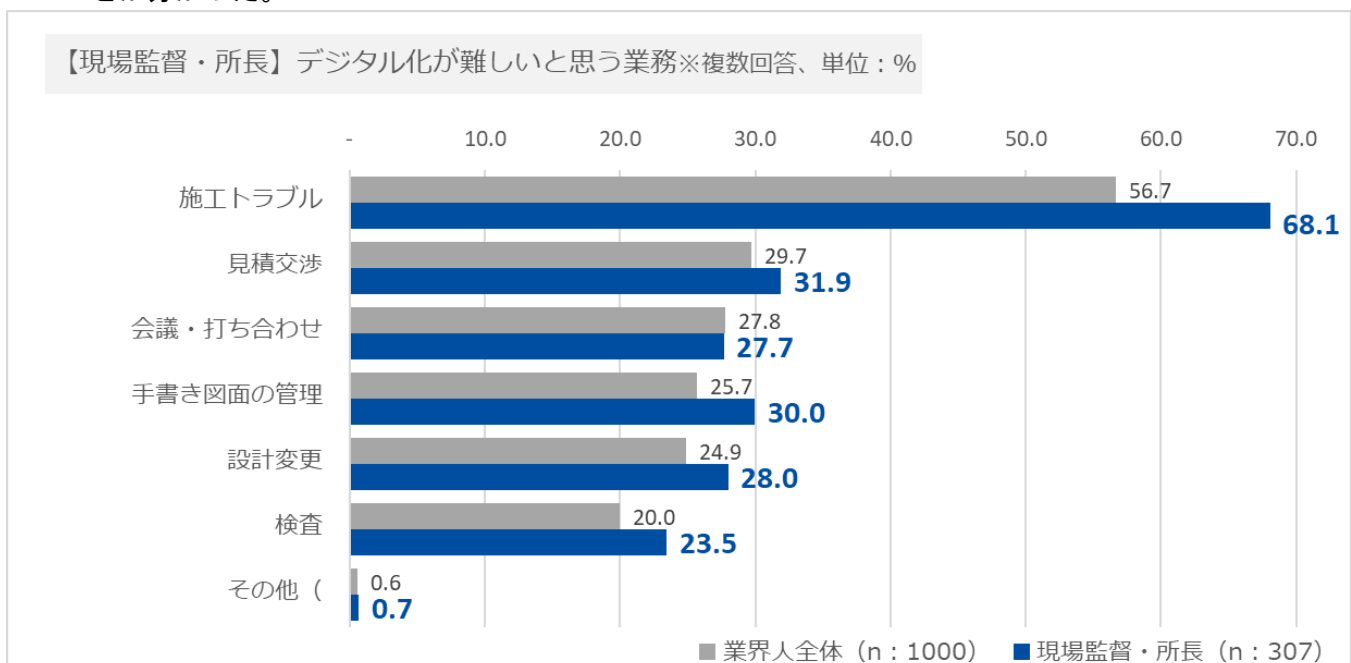
12. 【デジタル化できれば生産性向上に繋がるのに、と思う業務プロセス(複数回答)】

現場監督・所長(現場代理人)307名の5割強が、施工管理が「デジタル化できれば生産性向上に繋がるのに」と感じていることが分かった。この結果は、業界人1,000名の回答結果よりも14.1ポイントも高く、特筆すべき点である。

	デジタル化できれば生産性向上に繋がるのに、と思う業務プロセス ※複数回答	
	現場監督・所長(現場代理人)307名の回答	業界人1,000名の回答
1位	施工管理(53.7%)	図面作成(44.5%)
2位	図面作成(49.2%)	施工管理(39.6%)
3位	積算(42.0%)	積算(38.3%)

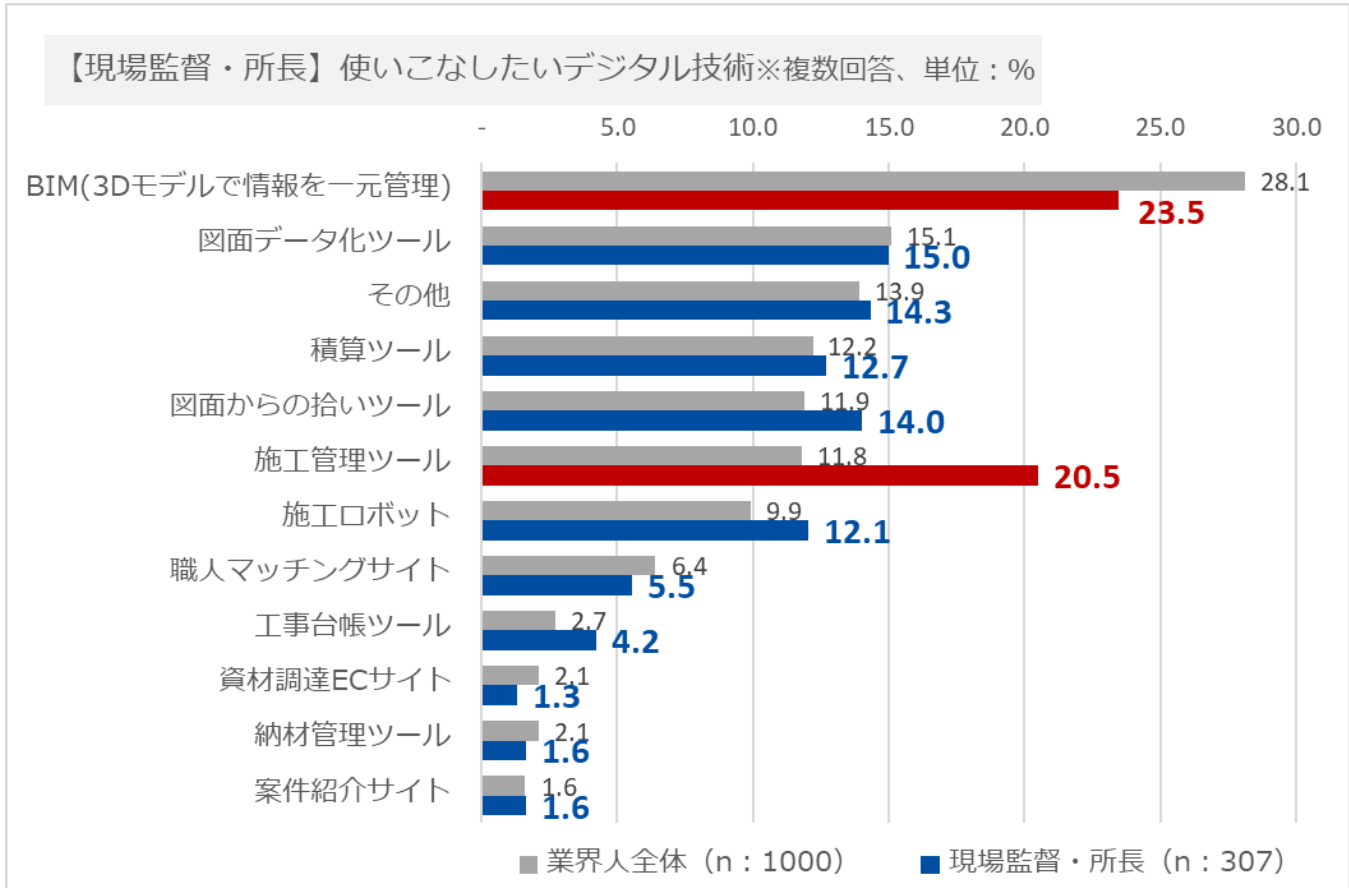
13. 【デジタル化が難しいと思う業務(複数回答)】

現場監督・所長(現場代理人)307名の7割弱が、施工トラブル対応をデジタル化が難しい、と考えていることが分かった。



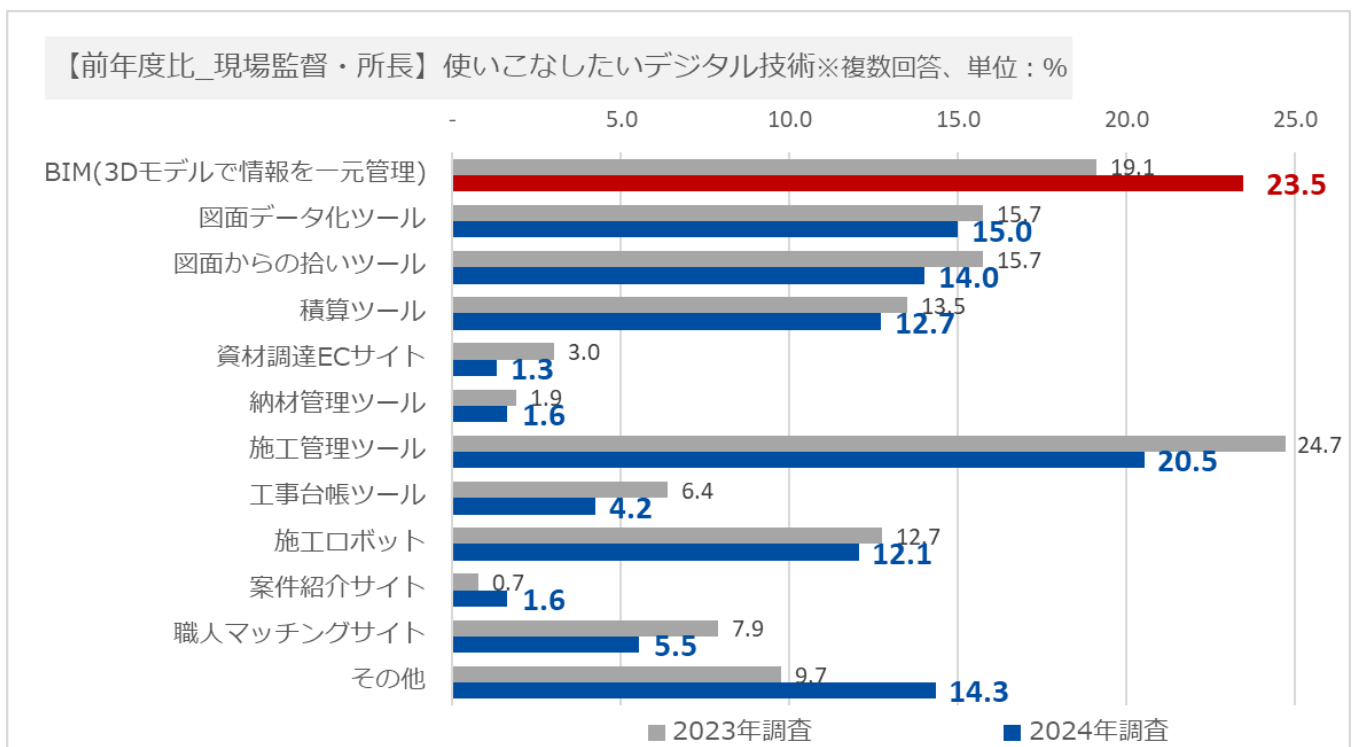
14. 【使いこなすことができればよいと思うデジタル技術（複数回答）】

現場監督・所長（現場代理人）307名に、「使いこなすことができればよいと思うデジタル技術（機器・ツール）」を尋ねたところ、1位「BIM(3Dモデルで企画・設計・施工・維持管理に関する情報を一元管理) (23.5%)」、2位「施工管理ツール (20.5%)」が他のツールに比べてダントツで数値が高かった。一方で、業界人1,000名の結果と比較すると、現場監督・所長（現場代理人）307名「BIM」は4.6ポイント少なく、「施工管理」は8.7ポイントも上回っていた。



14-1. 【前年度比_使いこなすことができればよいと思うデジタル技術】

現場監督・所長（現場代理人）の2023年から2024年の経年推移をみると、「BIM(3Dモデルで企画・設計・施工・維持管理に関する情報を一元管理) (23.5%)」が2023年調査結果よりも4.4ポイントも増加していた。



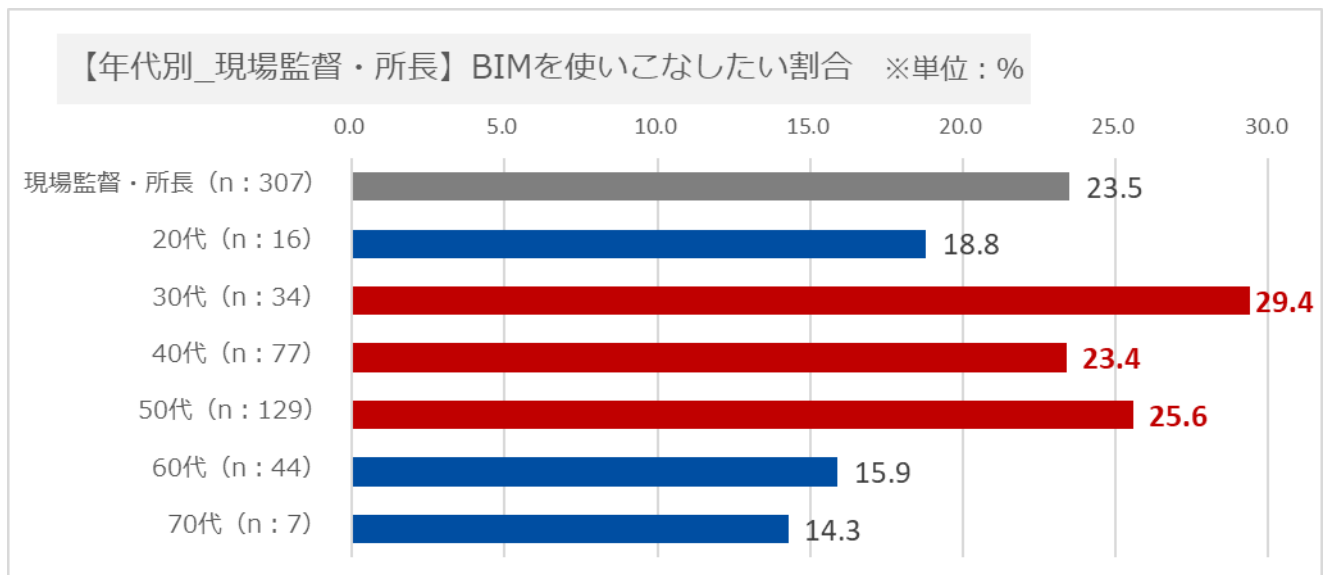
14-2. 【BIM を使いこなしたい理由】

現場監督・所長（現場代理人）307名のうち、「BIM を使いこなしたい」と回答した72名に理由を尋ねたところ、以下の通り分類できた。BIM の情報管理性、分かりやすさから効率化や生産性向上を期待する声が多いことに注目したい。

●情報管理性
<ul style="list-style-type: none">・すべてを一元管理した方が効率的だから・トータルなデジタル化ができる・ワンストップ化・積算、管理まで可能・管理/監理しやすい
●分かりやすさ
<ul style="list-style-type: none">・分かりやすい・複雑な図面等が、わかりやすくなる・3次元にすることで理解しやすい・立体で取合を確認出来るから・イメージがしやすい・周知しやすい・見える化・立体的にとらえることが可能となる・簡単になる、簡単そうだから・楽だから
●効率化
<ul style="list-style-type: none">・業務の効率化・変更への対応・時間的にゆとりが生まれるので・スピードがかなり速くなるから
●生産性向上
<ul style="list-style-type: none">・省力化・生産性向上・仕事の簡略化が図れる
●その他
<ul style="list-style-type: none">・単なる3Dではなく情報を付加した形での運用を身に付けたい・便利

14-3. 【年代別_BIM を使いこなしたい割合】

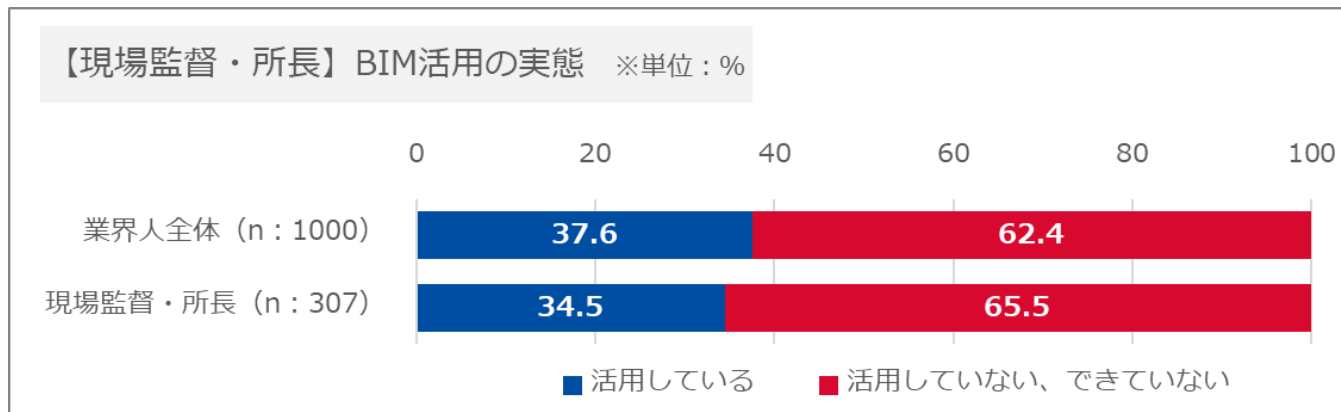
現場監督・所長（現場代理人）307名のうち30代、50代、40代の順で、「BIM を使いこなしたい」との回答割合が多かった。



15. 【実際のBIM活用】

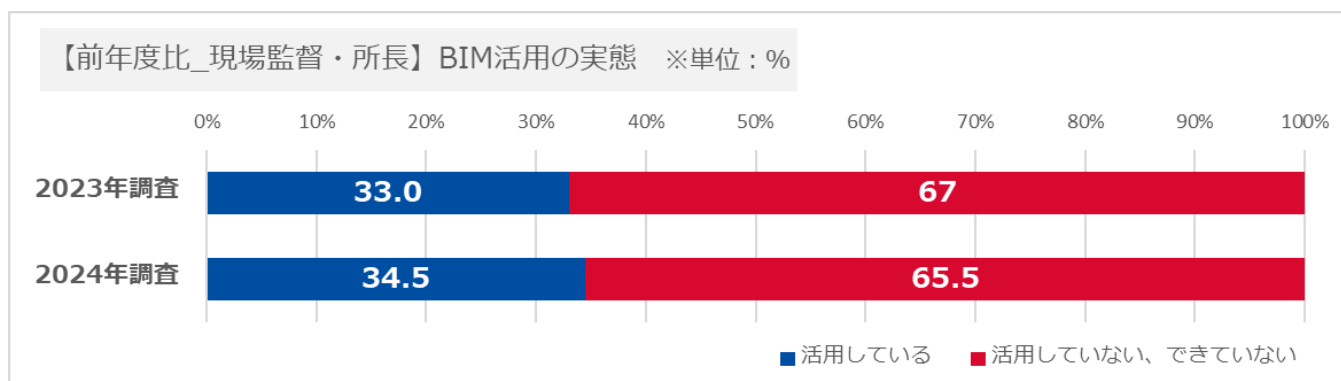
現場監督・所長（現場代理人）307名に「実際にBIMを活用しているか」を尋ねたところ、34.5%しか活用できておらず、業界人1,000名の回答結果よりも「活用している」と答えた方は少なかった。

このことから、現場監督・所長（現場代理人）では、BIMを使いこなしたい気持ちがあるにもかかわらず、実際にはBIM活用は進んでいないことが伺える。



15-1. 【前年度比_実際のBIM活用】

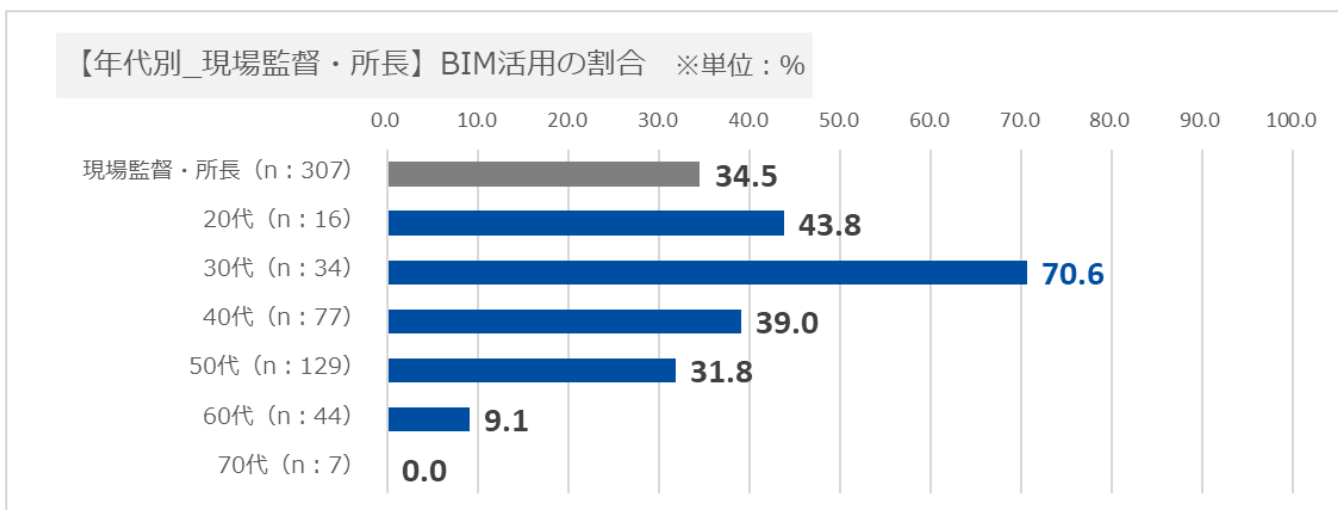
「実際にBIMを活用している」現場監督・所長（現場代理人）の割合は、前回調査に比べ、1.5ポイント上昇の34.5%であった。



15-2. 【年代別_実際のBIM活用】

年代別に「実際にBIMを活用している」現場監督・所長（現場代理人）の割合を見たところ、30代で70.6%と最多だった。

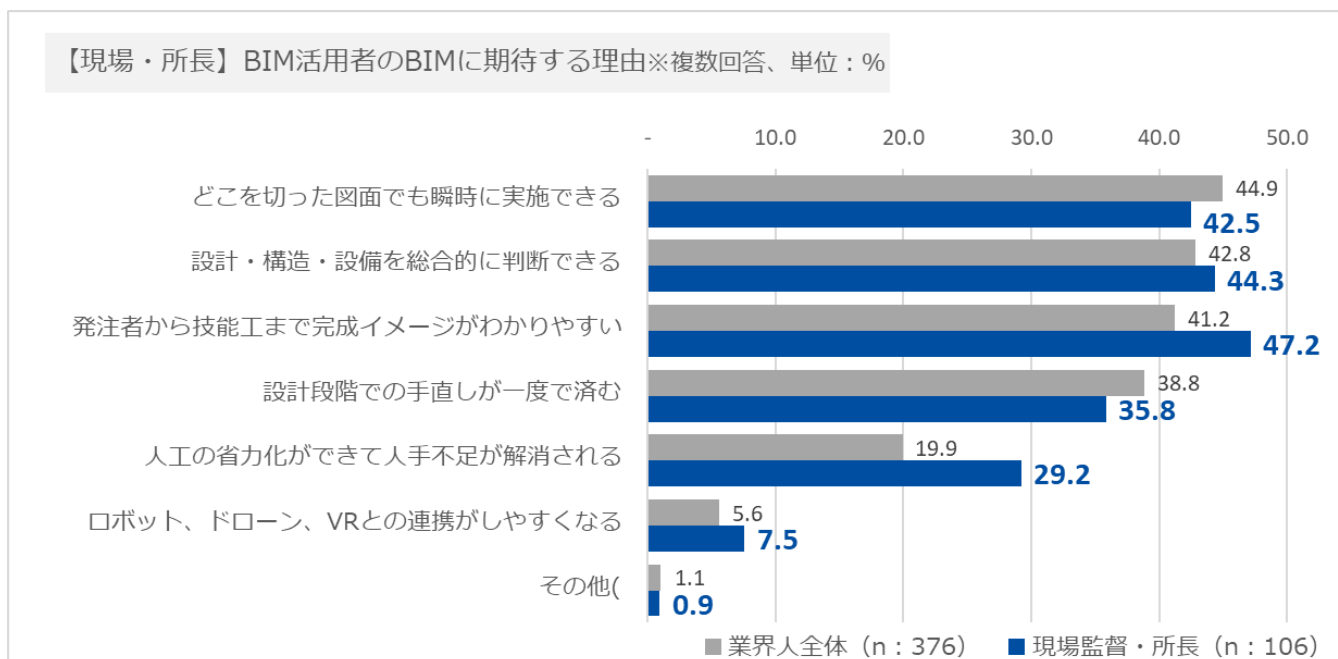
14-2. 【年代別_BIMを使いこなしたい割合】でも30代の約3割が「BIMを使いこなしたい」との結果がでていることから、30代の現場監督・所長（現場代理人）はBIM活用に意欲的であると推察できる。



15-3. 【BIM 活用者の、BIM 活用に期待する理由】

実際に BIM を活用している現場監督・所長（現場代理人）（n：106）に BIM 活用に期待する理由を尋ねたところ、次表の通りの結果となった。業界人 1,000 名の回答結果と比べると、1 位・3 位が逆転している。

	現場所長・監督 BIM 活用者の、BIM 活用に期待する理由（n：106） ※複数回答
1 位	発注者から技能工まで完成イメージがわかりやすい（47.2%）
2 位	設計・構造・設備を総合的に判断できる（44.3%）
3 位	どこを切った図面でも瞬時に実施できる（42.5%）



以上

【本件に関する報道関係者からの問合せ先】

野原グループ株式会社
 マーケティング部 ブランドコミュニケーション課
 担当：森田・齋藤
 E-Mail：nhrpreso@nohara-inc.co.jp